

中学二年

学年テーマ「生命の源～水と食物」

丸山 豊・石川 久美
有田 香代子・持山 育央

1. 学年テーマについて

中学2年では、全体テーマ「生命・環境」を設定している。このテーマを「生命の源～水と食物」と具体化し、生徒自身が自分の生活の中から独自の問題を発見し、解決の糸口を調査・体験活動から追求させたい。そして、問題解決の自由な表現をしつつ、自分の考え方や主張を発展させたいと考える。

学年として目標は、次の①～④の段階に集約される。

- ①生きていく上で欠かすことのできない「水と食物」を通して、身近な生活体験から生まれる「生命・環境」に関する様々な疑問を出発点とし、その中から自分の問題意識にまで発展させる。
- ②疑問・問題についての調査活動を行い、その中で、地域の人々や社会から学び、追求する。併せて、実体験（見学・実地・インタビューなど）をすることで、問題意識の深化をはかる。
- ③また、自分の生活全般の見直し、地球環境の保持、平和につながる事を理解し、「問題解決の方法を具体的に表現する」ことで、自らの考えを整理し、提言できる学習方法を身につける。
- ④グローバルな視野から、国際理解、平和のあり方に気づかせ、第3学年への発展課題とする。

2. 生徒の実態調査

第1回の授業で意識調査を行った。内容は、好きな教科、好きでない教科、進んでいると感じる教科、遅れていると感じる教科をはじめ、興味のあること、積極的に取り組めたこと、何のために勉強しているか、食べ物や水に関する疑問や興味関心などである。参考までに2つの調査結果を記載する。（数字は人数）

①好きな・興味のある教科

	国	社	数	理	英	美	体	技	音
男子	4	12	18	11	8	6	13	6	7
女子	7	15	10	8	16	14	11	10	20

②好きでない・興味のない教科

	国	社	数	理	英	美	体	技	音
--	---	---	---	---	---	---	---	---	---

男子	16	8	4	8	5	12	6	8	7
女子	9	13	12	14	6	3	12	8	2

3. 実践（指導計画・助言・生徒の様子）

第1回 4月15日 カイダンス

- ①総合人間科・学年テーマの説明
- ②身近な生活調査「食物調べ」の方法の説明
- ③生徒の学校生活、学習の意識調査の実施

（4月16日～22日 食物調べの実施）

毎日口にした水と食物について、食事の種類・料理名、材料・商品名、原材料、分量、買った店、産地・原産地の記録をとる。また、記録から生まれた疑問点をメモしておく。

第2回 5月6日 調査結果のまとめ・疑問点の整理
食物調査から生まれた疑問点を整理し、グループ毎に発表し合う。友達の間で疑問点でおもしろいと思ったことや、自分が追求したいと思ったことなどをメモする。

〈助言（教育学部的場先生）〉

疑問点は抽象的な表現にまとめず、その動機を含めて、自分の言葉で具体的に文章で表現すること。

教官4名で、「身近な食物や水から疑問点を見つけ出し、それを具体的にすることに時間をかける」「誘導することをなるべく避ける」ことが確認された。

第3回 5月20日 追求するテーマの吟味

自分の疑問点の中から2～3問選び、それぞれ動機も含めて文章にまとめる。

20名ずつの便宜的に分けた4つのグループで、その疑問点を発表し合い、質疑応答する。更に、疑問点を書き出したタックを使ってB紙の上で、近い疑問点をまとめ、それぞれに名前をつける。

4グループ（以下①～④）の中で出てきた疑問点のまとまりの名称は以下の通りである。

【テーマの分類（初回）】

- ①肉・アミノ酸・果物（流通）・水・添加物・農薬・

- 作り方・冷凍食品・インスタント食品・消化・牛乳
 ②牛・鶏・お茶・小麦・輸入品・薬品・着色料・保存料・こんにゃく・バターとマーガリン・食品衛生・食品の名前・油・カレー粉・香料・バナナ・水・パン・賞味期限・カビ・肉
 ③1つの食品に注目・添加物・加工食品・調味料・賞味期限・穀類・魚貝類・乳製品・その他
 ④-1 スーパーで調べられる分類・工場で調べられる分類・添加物・魚・その他
 ④-2 ふりかけ・パンとバター・水・添加物、調味料・牛乳・豆腐・その他の食品、野菜・健康と食品・生協・その他

〈助言 (教育学部的場先生)〉

- ・調べる場所を切り込み口になっている生徒 (④-1) を大切にすること。
- ・「調べるもの」と「調べる観点」とに分かれているが、A 具体的な物を多様な観点で調べる方向、B ある観点からいくつかの具体物を調べる方向、この AB 2 つの方向を検討すること。
- ・合同で発表する場を設けて、その報告を聞いて再整理する機会を設けること。

この分類から、教官4名で討議し、疑問点の分類を次の9つにまとめる。

【テーマの分類 (決定版)】

- | | | |
|-----------|--------------|------|
| ①乳製品 | ②冷凍・インスタント食品 | ③調味料 |
| ④添加物 | ⑤その他の食品 | ⑥水 |
| ⑦輸入・流通・宣伝 | ⑧身体への影響 | ⑨その他 |

第4回 6月3日 テーマの最終決定

グループ分けした疑問点が貼られたB紙と、全ての疑問点を書き出したプリントをもとに、自分以外の興味深い疑問点ベスト5を選ぶ。他の人の疑問点を参考に、自分の追究していく研究テーマを最終的に1つに決定する。更に、自分は上記した①～⑨のどのグループに属するのかを考える。

指導者の話し合いで、担当する疑問点の分類を決定し、必然的に指導教官が決定する。以降、分類されたグループ・指導教官で授業を展開する。

第5回 6月17日 事前学習

図書館を利用し、参考文献や資料をもとに事前調査をして、ノートにまとめる。

同時に、必要に応じて指導教官と面談を行い、テーマと追求方法を明確化していく。

第6回 7月1日 夏休みの活動計画

見学場所・実験方法・調査活動・研究者、関係者からの聞き取りなど、テーマ追求のあらゆる手段を考え、

計画を立てる。可能であれば、保護者の協力も得る。

この日までに、できる限り、訪問先に電話や手紙で連絡をとり、訪問の約束をとりつける。

第7回 7月15日 夏休みの活動計画発表会

自分がたてた夏休みの計画をグループ内で発表し、友達や先生から助言をもらう。

4. 夏休みの活動

夏休みを利用して、自分の疑問点に関して追求を行う。生徒が企画し交渉し約束をとりつけ実際に訪問する試みである。必要があれば教師も同行するが、極力生徒たちで訪問する。保護者と共に訪れたり、創作したりする機会も少なくない。

【訪問先・体験活動の例 (疑問点)】

- ・愛知牧場 (牛乳・乳製品・食品衛生)
- ・たまご村 (卵)
- ・納豆工場 (納豆)
- ・パン屋さん (パン)
- ・名古屋大学農学部 (冷凍乾燥・ビタミン)
- ・中央卸売市場 (食品衛生)
- ・保健所 (食品衛生)
- ・郡上八幡 (水)
- ・パンをつくる (小麦粉)
- ・ちくわをつくる (賞味期限)

5. 一学期の反省と今後の課題

一学期の総合人間科に対する生徒の感想では、「与えられたテーマではなく、自分の興味あることを調べられることはとても良いと思う。」「他の勉強の時よりも疑問が解けたときの喜びが大きい。」と、新教科に対する期待が表れている。また、普段は経験することのない、訪問先との交渉の中で「自分で会社に電話ができて、自分の言いたいことが伝わった時に感動した。」という感想も得ている。肯定的な感想ばかりでなく「食品以外に疑問を持っている人には……」「この教科は何の役に立つのか」といった課題を呈する感想もある。「課題を与えられた方が楽だ。自由の大変さがわかった。」という感想も、総合人間科の特徴を表していると思われる。

2学期は、夏休みの活動のまとめから導入する。生徒それぞれの表現方法でまとめさせたいと考えている。そして、それを発表する機会を持ち、更に生まれた疑問点の追究へと向かう予定である。

1学期の総合人間科のほとんどの授業に、多忙の中、名古屋大学教育学部の的場先生、岐阜大学教育学部の石川先生が参加して下さった。迅速な助言に助けられることが多かった。(文責 持山育央)